第2分科会
テーマ：地域と連携した維持管理における工夫事例

No.	発表題名	地　方 ブロック	水系名 河川名	直轄／補助 (級別)	河川概要				発表者	所属部署		事業の概要
					河川の 流域面積	河川分類	整備計画 流量	セグメント		機　関	部・事務所	
1	舞鶴遊水地を軸とした「タンチョウも住めるまちづくり」について	北海道	石狩川水系 嶮淵川(ｹﾇﾌﾁｶﾞﾜ)（舞鶴遊水地）	直轄(1級)	1244km2 （千歳川）	中小河川	160m3/s （W=1/100 ）	2-1	中村　一貴	北海道開発局	札幌開発建設部 千歳川河川事務所	・植物調査や動物調査などの環境調査を行い「タンチョウも住めるまちづくり」の取り組みに反映している。 ・環境整備として営巣環境の創出のため微高地の作成やヨシの植栽を行った。 ・観察小屋の設置や出前講座の実施など普及啓発に努めている。
2	住民に親しまれる親水施設を目指して ～ウツベツ川の取り組み～	北海道	十勝川水系 ウツベツ川	補助(1級)	16.5	都市河川	110m3/s （W=1/50 ）	1	川内　啓夢	北海道	帯広建設管理部 事業課	・帯広市街地を流れるウツベツ川は洪水対策として河川改修工事を行っている。本事業より河川へのアクセス箇所として親水護岸を設置したが、その利活用方法や維持管理をどのように行っていくかが課題となった。この課題を解消するため、地域と連携し行っている取組事例を報告する。
3	竜の口渓谷における多自然川づくり(魚道整備等)の取組み	東北	名取川水系 広瀬川1次支川 竜の口渓谷	補助(その他)	2.5km2	中小河川	整備計画：なし (流下能力)47m3/s (W=1/35)	M	大宮　裕樹	仙台市	建設局 百年の杜推進部 河川課	【事業の概要】竜の口渓谷と広瀬川の間には床止め(落差2.4m)があり、水域連続性が未確立であった。そこで、魚類の遡上環境の創出を目的に既存施設の部分改修による低コスト型切欠き魚道を整備した。その結果、床止めの上流で新魚種(ヨシノボリ類)の定着・生息を確認した。【工夫点】①低コスト型切欠き魚道 (土研「重点普及技術」に選出)、 ②順応的維持管理(市民団体と連携した維持管理、覚書交換)、③成果の還元 (市民向けWS開催、内外への積極的情報発信)
4	荒川太郎右衛門自然再生地における協働・連携の取り組みについて	関東	荒川水系荒川	直轄(1級)	2940	大河川	11,900m3/s （W=1/200）	2-2	逢沢　英之	関東地方整備局	荒川上流河川事務所	・荒川太郎右衛門自然再生地は、自然再生推進法に基づき全国に先駆けて認定された自然再生事業で荒川の旧流路を中心として過去に確認された多様な生きものが住めるような湿地環境の再生を目指し、様々な取り組みを行っている。 ・本取組は、自然再生地の環境を継続的に保全していくための新たな普及啓発活動と近隣の小学校と連携した取り組み事例などを紹介する。
5	流水型ダムにおける環境配慮への取組み	九州	大野川水系玉来川	補助(1級)	87km2	中小河川	850m3/s (W=1/80)	M	木下　瑞基	大分県	玉来ダム建設事務所	・流水型ダムの建設における遡上阻害の解消（魚道の設置等）
6	「神代川かわまちづくり」における取組について	九州	五ヶ瀬川水系 神代川	補助(1級)	4.3	中小河川	55m3/s （W=1/30 ）	M	三林　聖	宮崎県	西臼杵支庁	・県、高千穂町、地元住民が連携して策定した「神代川かわまちづくり計画」に基づき、三面張りの水路を改修し、かつての自然豊かな河川の再生を目指し取り組んでいる。